【緑地を楽しむ本】

『空で生きるトンボ』　月刊たくさんのふしぎ　2026 年 9 月号

吉谷昭憲　文・写真・絵　　福音館書店



今年は例年に比べて、トンボを数多く見かけたような気がします。空中をすいすいと飛ぶトンボは、とても気持ちよさそうに見えます。

トンボは何を食べているのでしょうか？口はしっかりしていて、むしゃむしゃとかみ砕きそうです。トンボは生きた虫を捕らえて食べているのですね。

この本はトンボがいかにすごい昆虫であるかを教えてくれます。例えば、トンボのからだの形は、まるで飛行機のようです。からだを急旋回させたり、空中停止（ホバリング）もできるのです。トンボのはねは薄くて軽く、山と谷のようにデコボコが連続しながらカーブしています。そのため、とても丈夫な構造なのです。

トンボの眼は複眼ですが、大きくて、頭の大部分を占めています。この複眼のおかげで、周りを広く見渡すことができます。

トンボの脚は細いので、ほとんど歩けません。休む時につかまることはできます。飛ぶときには、脚を折りたたみます。このため空気抵抗を減らすことができると考えられます。

今度トンボを見かけたら、じっくり観察したいですね。

（齋藤好子）